

しっかり準備を整えて 「学習指導要領」 改訂にともなう 「移行措置」



昨年、新学習指導要領が公示されました。それに合わせ、全面施行となる2020年度に向けて移行措置が始まります。今回は、新学習指導要領の基本的な考え方と、移行措置の内容について解説します。

文●甲斐ゆかり(サード・アイ)/イラスト●あきんこ

改訂の基本的な考え方は

今回の学習指導要領改訂では、基本的なポイントとして大きく3つのことが挙げられます。

1つ目は、子どもたちがこれからの社会を切り拓いていくための資質・能力を、より確実に身につけていくことです。そのためには、どんな資質・能力を子どもたちが身につけるとよいかという認識を社会全体でもち、学校と社会で連携することが重視されます。新学習指導要領(以下、新指)では、これを「社会に開かれた教育課程」と呼んでいます。

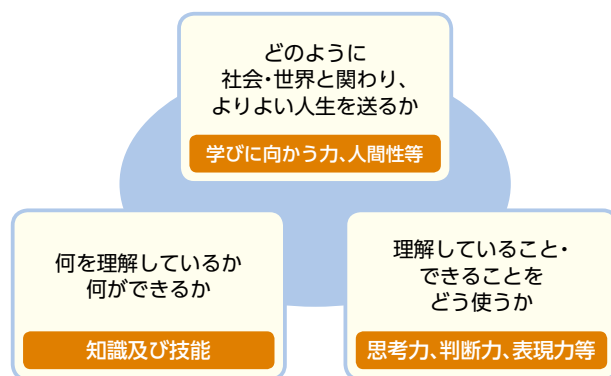
2つ目は、現行の学習指導要領の枠組みや内容を維持しつつ、知識の理解の質をより高め、確かな学力を育成することです。

3つ目は、道徳教育の充実や体験活動の重視、体育・健康に関する指導を充実させ、健全な心身を育成することです。

このような教育を実現するために、新指では、全ての教科等を通して育成すべき資質・能力を、

- 知識及び技能
 - 思考力、判断力、表現力等
 - 学びに向かう力、人間性等
- の3つの柱で再整理し、「何を教えるか(内容)」だけでなく、「何ができるようにするか」を示し、各教科における学習の意義を明確にして、授業等の改善に活かすことをねらいとしています。

資質・能力の3つの柱



授業をどう改善するかに 関わるものは

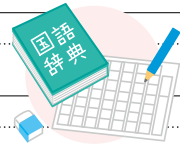
新指では、「主体的・対話的で深い学び」を実現することが目指されています。一見新しい手法のように見えますが、文部科学省は、小・中学校ではこれまでの教育実践で蓄積されてきたことをもとに授業を工夫・改善することが重要で、浮き足だつて全く新しい授業方法を導入する必要はないと解説しています。その上で、法律の改善によって教員の授業準備時間の確保などを行い、新指のスムーズな実施に向けた指導体制を整えたり、指導案や実践例を集約・共有化して、授業研究や準備の支援を進めたりしていくとしています。

また、学習の基盤となる言語能力や、

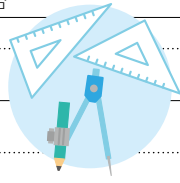
文部科学省説明資料(2017)を基に作成しています。

国語・算数・理科・社会の主な変更点

国語	全体	2020年度から	語彙指導の充実、情報の扱い方(「原因と結果」、「比較と分類」など情報の関係性や整理の仕方)事項の新設。
		学年別漢字記当表の改訂	
4年	2018年度から追加	都道府県で使われる漢字を追加…茨、媛、岡、賀、漏、岐、熊、群、香、佐、埼、崎、滋、鹿、城、縄、井、沖、徳、栃、奈、梨、阪、阜、富	
	2018年度から削除	団、紀、喜、救、型、航、吉、殺、士、史、象、貫、貯、停、堂、得、毒、費、粉、脈、歴(5年へ移動)	
		胃、腸(6年へ移動)	
5年	2019年度から追加	上記4年からの移動	
	2019年度から削除	賀、群、徳、富(4年へ移動)	
		恩、券、承、舌、銭、退、敵、俵、預(6年へ移動)	
6年	2020年度から追加	上記4・5年からの移動	
	2020年度から削除	城(4年へ移動)	



算数	全体	2020年度から	データを活用した統計的な内容の充実。
3年	2018年度から追加	メートル法	
4年	2018年度から追加	メートル法	2019年度から追加 小数倍、簡単な割合
	2019年度から追加	メートル法、速さ(6年から移動)	
5年	2019年度から削除	分数×整数、分数÷整数(6年へ移動)	
	2020年度から削除	素数(中1へ移動)	
6年	2020年度から追加	代表値(平均値・最頻値・中央値)(中1から移動)	
		分数×整数、分数÷整数(5年から移動)	
	2020年度から削除	速さ(5年へ移動)	



理科	全体	2020年度から	自然災害を充実。プログラミングを体験する単元として、6年「電気の利用」が例に挙げられている。
3年	2020年度から追加	音の性質 磁石が物を引きつける力と磁石と物の距離	
4年	2020年度から追加	雨水の行方と地面の様子	
	2018年度から削除	光電池(6年へ移動)	
5年	2020年度から追加	水溶液の均一性(中1から移動)、自然災害	
	2019年度から削除	水中の小さな生物(6年へ移動)	
6年	2020年度から追加	人の生活と環境との関わり 光電池(4年から移動)、水中の小さな生物(5年から移動)、自然災害	
	2019年度から削除	電熱線の発熱は、太さによって変わること(中2へ移動)	



社会	全体	2020年度から	主権者教育、防災・国土学習の充実。「地図帳」を3年生から配布し、内容に応じて使用する。
3年	2019年度から追加	消防や警察のはたらき(4年から移動)	
	2020年度から追加	市の移り変わりの様子	
	2019年度から削除	地域に伝わる行事	
4年	2020年度から追加	災害の防止 県内の文化財や年中行事	
	2020年度から削除	消防や警察のはたらき(3年へ移動)	
5年	2018年度から追加	竹島・尖閣諸島が日本の領土であることを明記。	
	2020年度から	「情報」単元の充実。	
6年	2020年度から	学習内容の順番を変更。 ①政治→②歴史→③国際の政治先習となる。	



*学習指導要領や文部科学省資料「学習指導要領改訂に伴う移行措置の概要」等を基に示しています。



情報活用能力などの育成のため、教科横断的な学習の充実も求められています。そのため「主体的・対話的で深い学び」の充実には、学校全体としての時間・人的資源の適切な配分によって学習効果を最大化できる「カリキュラム・マネジメント」の確立が必要であるとしています。

新指で重視されていることは

教育内容の主な改善事項には、次のようなものがあります。

- 言語能力の確実な育成：国語やその他の各教科等において、言語能力の育成や言語活動の充実が目指されています。

●理数教育の充実：授業時数は維持しながら、さらに学習の質を向上させ、算数での統計教育や理科の自然災害に関する内容の充実が求められています。

●伝統や文化に関する教育の充実：国語の古典などの言語文化、社会での文化財や年中行事の理解、音楽での和楽器や郷土音楽、家庭での和食・和服の指導の充実が挙げられています。

●主権者教育、消費者教育、防災・安全教育などの充実：関連する教科等で、公共施設の整備や租税の役割、国民としての政治への関わり方や、自然災害の内容と国の機関による災害対応の理解、オリンピック・パラリンピックに関連したスポーツの意義の理解などが盛り込まれています。

●情報活用能力の育成(プログラミング教育を含む)：コンピュータ等を活用した学習活動の充実、プログラミング的思考の育成などが挙げられています。

●子どもたちの発達の支援：小学校段階からのキャリア教育の充実、発達障害や日本語の習得に困難のある子どもへの対応、指導の工夫が含まれます。

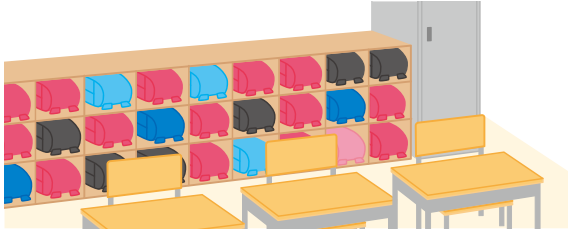
移行措置の概要

2018～19年度は、新指への移行のための期間にあたり、円滑な移行を図るため、学習内容の移動・変更などが行われます。国語、算数、理科、社会については、上の表を参照してください。

なお道徳と外国語については、本誌18～19ページに詳しくまとめています。

2018年度からの実践例

次に、新指に対応した実践を行っている小学校の例を紹介します。
ぜひ今後の取り組みの参考にしてください。



1年

「りっちゃんあのね —MYおすすめレシピをつたえよう—」

西宮市立北夙川小学校 平林千恵先生

国語

新学習指導要領に
対応している点

対応している点を次のように整理しました。

①主体的・対話的で深い学びを実現するため、ルーブリック評価*を用いました。

*ルーブリック評価……学習到達度を示す評価基準を、観点と尺度からなる表としてしめたものである。主に、パフォーマンス課題を評価するために使われる。最大の効果は、子どもたちが自分の今の位置を自覚し、より高みを目指そうと前向きに学ぶことができ、授業の振り返りの際にも有効に働くということ。ルーブリックは子どもたちが理解できる言葉で提示することが大切である。

②単元的学習展開と教科横断型授業を構想するために、「MYおすすめレシピをつたえよう」という活動を単元のゴールに設定しました。「何のために」学習しているのか、また、単元で培った（習得した）力をどのように“活用”するのかを意識して取り組みました。

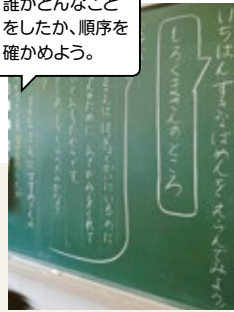
授業の流れ

①教科書に出ていない動物と、好きな食材とのマッチングクイズ大会からスタート。それぞれのお気に入りや、おすすめのスラダも紹介し合います。

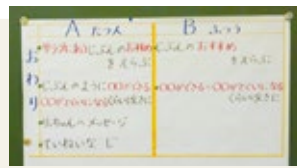


病気のお母さんのためにサラダを作ろうとするりっちゃんのところへ、様々な動物が登場し、アドバイスしてくれるという物語「サラダで げんき」が題材です。

誰がどんなことをしたか、順序を確かめよう。



②物語を読んで好きな場面を選び、それぞれ感想を話し合った後、いよいよ物語を読み取っていきます。



めあて（つきたい力）やルーブリックはその都度児童と共有し、目標をしっかりとつかませます。

④りっちゃんにどんな一品をおすすめしたいかを伝える手紙を書きます。できた手紙を発表し合って、クラスのオリジナルサラダのレシピ集にまとめます。



わたしはサーモンが
いいと思う!

サラダに入れると
お母さんが元気に
なるものは何かな?



③りっちゃんがどんなものをサラダに入れるといいかを考え、ペアで話し合います。

ぼくはかじかまを
教えたいな

何て書けば
いいかな……



子どもの実態に合わせて、具体的な活動を見通し 前向きな気持ちで取り組めることが大事

授業では、児童の学習状況などの実態に合った言語活動を設定することが大切だと思います。また、その単元で、どのような力を身につけるのかが、教師はもちろん、児童にもわかっていることが重要です。「何ができるようになるのか」「どんなことが評価されるのか」が明確になることで、学びの自覚化が促されます。まさに、指導と評価の一体化が大切だと言えます。

さらに、学ぶ主体である子どもたちが「ワクワクする！ やってみたい！ 学びたい！」という気持ちで学習に取り組める工夫が大切です。ここは、教師の腕の見せどころであると思います。価値ある授業をするには、教材研究に始まり、教材研究に終わる。この一言に尽きます。いろいろな視点から児童の学びの姿を想像し、教材を読み込むことが大切だと思います。

5年

「分数と小数、整数の関係を調べよう」

草津市立玉川小学校 山田洋人先生

新学習指導要領に
対応している点

この単元で「何ができるようになるか」について、新指で提示された3つの柱で整理しました。

この単元で育成する情報活用能力

- ①知識・技能→課題解決のために情報を整理する(フローチャート作り)力。
- ②思考力・判断力・表現力等→課題解決における最善の手段を見つけ、順序立てて整理する力。
- ③学びに向かう力・人間性等→目的に応じた手段で情報の構成を考え発信する力。

授業の流れ

分数と小数が混じった加法や減法の計算の順序を考え、計算できることが本時の目標です。「はやく・かんたん・せいかくに」解くには、どうしたらよいでしょうか？ 自分たちが予想した解き方で解いてみます。

以前に「分数のたし算、ひき算」の単元でフローチャートを使って、計算の手順を確認する学習を行ったところ、順序を追って計算していく子どもたちがたくさんいました。今回はフローチャートを使って、分数と小数が混じった計算の順序を確認しました。

「は・か・せ(はやく・かんたん・せいかくに)」を意識させることで、子どもたちが小数か分数のどちらにそろえて計算するのかを順序立てて考えることができました。計算方法を自分で確認している子どもたちの姿を見て、手順の整理は非常に有効だと思いました。

算数だけではなく、他の教科でも手順や分岐を使ったフローチャートで思考を可視化して表す活動は有効だと考えています。



小数にそろえたら「は・か・せ」で解けると思う人!

①小数は分数で表せますが、分数は小数で表せないことがあります。それを確認し、分数で表すと正確に解けることを理解していきます。



この言葉なら、小数と分数の分岐になりそう!

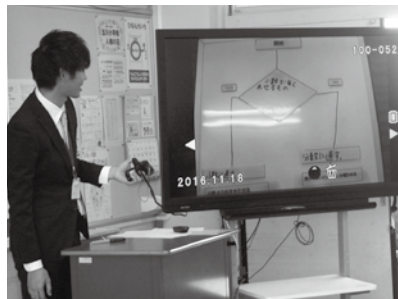
②グループになり、以前学習した分数の計算のフローチャートにどんな手順を付け加えればよいか確認します。さて、どんな言葉が入るでしょうか？



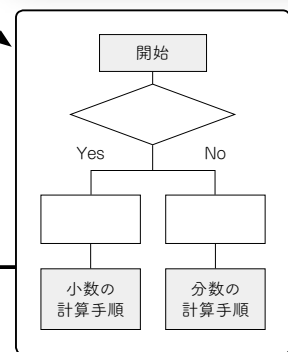
分数でも計算してみよう……

この問題は小数にそろえた方が「は・か・せ」で計算できるかも

③分数にそろえた方が正確に解けますが、場合によっては、小数にそろえた方がよいときもあります。計算しながら考えていきます。



④完成したフローチャートで問題を解きながら確認することで、「は・か・せ」で解ける方法が見つけれられたか、確かめていきます。



授業で使用したフローチャート。空白部分を児童が考え、完成させます。



プログラミング的思考で 子どもの学びを豊かにしていきたい

本校では、「主体的な学びを通して論理的思考力と問題解決力を高めたい」～「段取り力」を身につけ、自信をもって表現できる子どもに～、を研究テーマにしています。本校が考える「段取り力」は、イメージを形にできたり、生活や学習の中でPDCAサイクルを意識できたり、物事の解決の道筋を複数考えられたりする力です。例えば、難しい課題に取り組むとき、「わからない」と

投げ出すのではなく、絵コンテやフローチャートをかいてわかってしたり、ひとつの解決法が失敗に終わった時、他の方法を柔軟に考えられたりすることを指しています。

このために活用するのが「プログラミング的思考」です。授業作りにおいても、自分の考えを整理して可視化し、対話的な学びの実現をめざしています。

新学習指導要領に
対応している点

新指では、既存の「光」の単元に新しく「音」が加わります。
今回は、その「音」についての授業を行いました。

新指では、

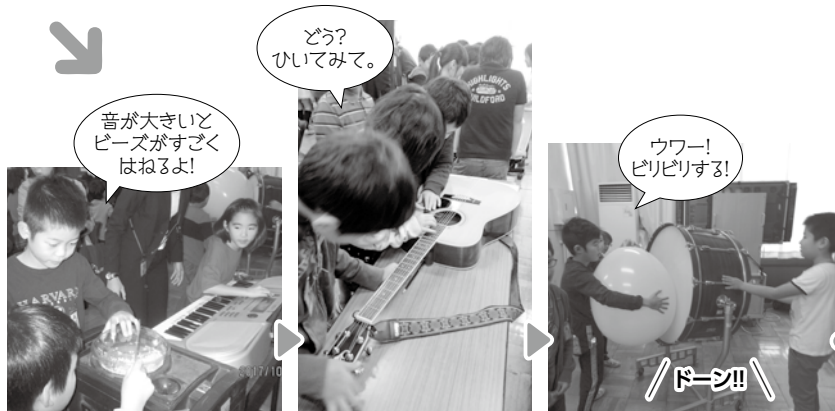
- ㊦ 音が出ているものはふるえている
 - ㊧ 音が大きくなると、ふるえ方も大きくなる
- という内容を学びます。今回は㊦についての授業になります。

授業の流れ

まずは、いろいろな異なる大きさの音を聞きます。「目を閉じて、何が違うか考えながら聞いてください(岡野先生)」。電子オルガン、ギター、大太鼓それぞれ、大小の音を順番に鳴らします。太鼓の「ド——ン！」という音に、子どもたちはビックリ！ この後、音楽室も使って実験します。



①「音の大きさが違う」という意見が出たところで、今日の問題を作っていきます。問題は「音の大きさが変わるとき、ものふるえ方はどうなるのだろうか」です。



②電子オルガンで音の大小とピースの動きを確かめます。

③こちらはギター。音の大小と弦のふるえ方を確認。

④太鼓の音の大小と、打面のふるえ方の違いを風船を使って感じます。



⑤実験の結果を書いたシートを見ながら、どんなことがわかったかを話し合います。



子どもの「気づき」を いかに「問題」に結びつけるかが大事

音の授業に限らず、3年生の段階では、「問題づくり」をすることは難しいです。子どもたちに「どうしてかな？」と思わせることはできても、そこから考えを進めて問題という形にまでもっていくのは、まだこの学年では簡単ではありません。

そのため、子どもの気づきをどのように教師が拾い上げ、子どもたちが問題を自分たちでつくったといかに思

わせるかが問われます。子どもの気づきの内容をある程度予想していても、実際にはその時々で変わることも多く、思ったようにはいかないものです。

音のように「目に見えないものを見ようとする」とは、その後の学習にも確実に生かされてきます。教材の準備に手間がかかるなど、大変なこともあるでしょうが、子どもたちと一緒に楽しんで実践してほしいと思います。

4年

「自然災害から人々を守る」

川口市立鳩ヶ谷小学校 千守泰貴先生

新学習指導要領に
対応している点

本小単元は、新学習指導要領社会科第4学年の内容(3)のア、イに基づいて設定されたものです。子どもは水害による課題、国や県、市の対策を知るとともに、解決策を考え、提案しました。

第4学年内容(3) 自然災害から人々を守る活動(要約)

ア 地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解する。

イ 過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現する。

授業の流れ

自分たちの住んでいる川口市の水害の状況を調べ、解決策を話し合います。
他の地域の解決策などとも比較して、どうしたら問題を解決できるかを考えていきます。



対策をしているのに
水害を防ぐことができて
いないのはどうしてだろう？

②グループで、現在の水害に対する取り組みの問題点を整理します。同じように水害問題を抱える他地域の対策を参考にしながら、解決策を考えます。



ここが
問題じゃない？

ぼくが調べた
のはね……

①市内で起きている水害の数や、市・県・国の関係機関でおこなわれている対策について調べ、水害を防ぐことができていない理由を考えます。

この案、
採用されない
かなあ



わかりやすくな
ってる？

③グループで考えた解決策を話し合い、より良い解決策を考えます。解決策を練り直して、提案する案を上げていきます。

子どもたちからは「自分たちの生活している地域のことだから、自分たちも考えたい」という声や、「自分たちの考えた解決策が今後取り入れられることがあればうれしい」という振り返りの記述が見られました。また、他の単元の学習において、社会的事象の課題を発見し、解決策を考えた子どももいました。

全体として、今後も起こりうる水害の課題を解決するために、子どもたちが意欲的に取り組む姿が見られました。実社会に見られる課題について考えるからこそ、地域社会の一員としての自覚をもつことにつながると考えます。



社会に見られる課題を解決する学習は 切実感を感じられる工夫が必要

この授業では、水害に対する国や県、市の取り組みについて調べ、関係機関がどのように協力しているかについて学習します。それぞれの協力関係がひと目でわかるよう、関係図にまとめると理解が深まるでしょう。

近年は、これまで起こってきた水害に加えて、ゲリラ豪雨などの都市型水害も増加しています。これらの水害についても扱うと、さらに学習が深まると思います。

解決策を考える学習では、「自分たちの身近で起こっていることだ」というふうには、課題に対して切実感をもてるような工夫が必要です。この授業では市内のアンダーパス（鉄道や道路の立体交差で、路面が低くなっている部分）で起こった車の水没事故の写真を学習の導入として活用し、子どもの関心・意欲を高めて学習を展開していきました。